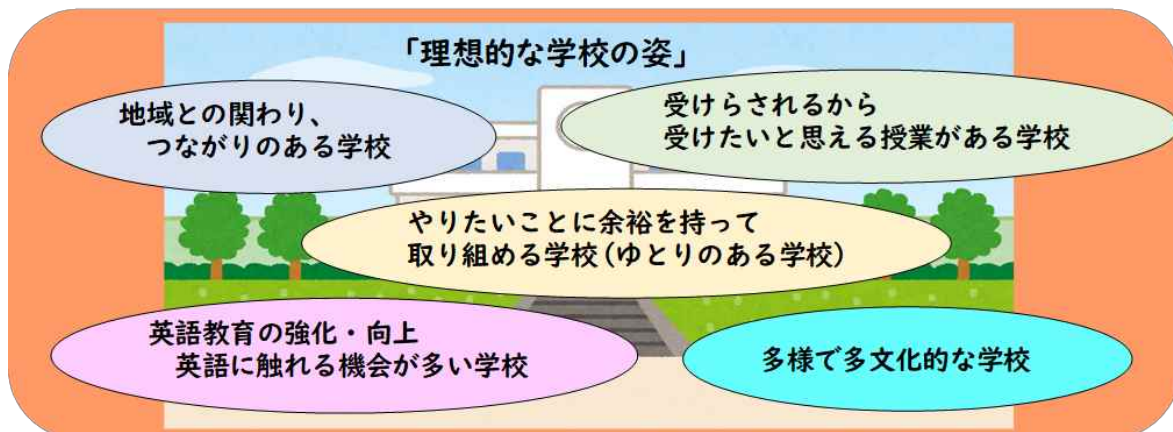


Topics
1

これが私たちの思う「理想の学校の姿」です！ ～次世代総合教育会議～

今年度も昨年度に引き続き、県内の高等学校・特別支援学校高等部（高知国際高、高知農業高、高知若草特別支援学校、土佐塾高、橋原高）に通う5名の生徒が委員として参加し、それぞれが考える「**理想の学校の姿**」を発表し、知事や県教育長・教育委員と意見交換をする「次世代総合教育会議」が令和6年8月22日（木）に開催されました。

高校生の委員からは、「理想的な学校の姿」として以下のような提案をいただきました。



高校生の委員の発表を受けて知事からは、「やはり時代はどんどん流れて、新しい時代になっているので、新しい時代に即した学校であってほしい。本日のような対話を通して、学校で、そして社会でキャッチボールをしながら、時代の流れに沿って、あるべき学校の方向に変えていくということ、我々としても、それをサポートしていくのが大きな責任ではないかと思う。」という話がありました。

いただいた高校生の委員のご意見やご提案、また本会議で協議された内容は、本県の教育の振興を図るための参考とさせていただきます。

なお、当日の会議の詳細は下の県のHP等をご覧ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024082600079/>



↑会議資料

高知県教育委員会 YouTube
チャンネル「とさまなチャンネル」でも、
今年度の「次世代総合教育会議」
の様子を公開中！

Topics
2

若年教職員と県教育長との対話（県内4会場）

令和6年8月2日～26日にかけて、若年教職員の皆さんと県教育長が、日ごろの業務の状況や仕事のやりがい、そして悩みなどを対話（意見交換）する会を県内4会場（高知市・中部・東部・西部）で今年初めて開催しました。

若年教職員の皆さんには、「教職員になった理由」、「やりがい」教職員をやっている「大変だったこと」「面白かったこと」「驚いたこと」など、日々感じる様々なことについてお話しいただきました。

右の動画は、高知市内にある学校の先生たちで行った対話（意見交換）の一部のやり取りの様子を「とさまなチャンネル」で紹介しているものです。ぜひ、ご覧ください。



<https://youtu.be/V6ZLOloDF3U>

若年教職員と県教育長との「対話」の様子

主な趣旨

- ✓ 第3期教育大綱・第4期教育振興基本計画の初年度である令和6年度において、当該大綱・計画に示した考え方や内容を広く学校現場にもご理解をいただくために、**教育大綱等について教育長が現場の教員に伝えるような場**を設定する。
- ✓ 若手教職員（県外出身者も含む）の**日々の業務の状況、やりがいや悩み等を教育長が直接聞く場面**を作ることで、現在の学校現場等の状況について「生の声」を把握し、**県の教育施策等の運用に生かす**。
- ✓ 日頃接しない同年代の別校種の教職員と触れ合うことで、**教職員同士の交流が生まれる寄与**とする。

【開催実績】

▶ 高知市会場 令和6年8月2日 ▶ 中部会場 令和6年8月5日 ▶ 東部会場 令和6年8月8日 ▶ 西部会場 令和6年8月26日



※写真はいずれも高知市会場の様子

高知市会場の「対話」でいただいた主な意見等の概要（一例）

▶▶▶ 詳細は「とさまなチャンネル」で公開中

【先生になって「やりがい」等を感じた話】

- ・「分からない」という子に対して、子どもたちと一緒に「分かる」というふうにしていった時、すごく嬉しいです。
- ・卒業式後に子どもが来てくれて「先生のおかげで中学校が楽しく過ごせた」という言葉を聞いた時。
- ・みんなで授業を作り上げていくという空気感がある、お仕事ではあるが楽しませてもらっている

- ・部活動の生徒の引退の時に、生徒と一緒に本気で泣いたりする。本気で涙して、本気で悩んで、毎日過ごすことができるこの「教師」という仕事はすごく素敵だと思って感じています。

先生になって「大変だった」話

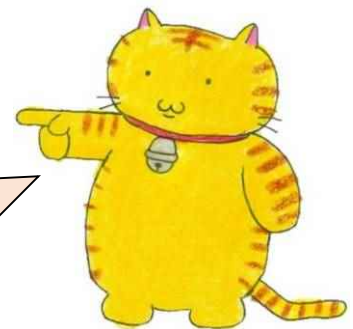
- ・（県外出身であったのもあり）着任当初は毎日生活面も含めて試行錯誤だった。高知県の人の「あたたかさ」にすごく救われた。

- ・先生の数が少ない。教員をやってみたいと思える人が増えてくれることが必要。
- ・働く親世代として、看護休暇が足りなくなること等について不安。働く親世代に安心材料となる仕組みがもっとあればよい。
- ・業務の量は実際多いと思う。特に、ICT教育等の初めてのことでチャレンジが必要なのは、必要性は分かるのでみんな取り組むが、どうしても時間はかかる。 など



↑若年教職員と県教育長との対話＜中部会場＞

他の会場の「対話」の様子についても、今後「とさまなチャンネル」や会議資料等でご紹介していきます。



小中学校・高等学校・特別支援学校の若年教職員の方々以外の関係者とも、現在、県教育長は「対話」を続けています。9月には、保育所・幼稚園の若年職員の方々からも日ごろの業務の状況や仕事のやりがい、悩みなどをお聞きするとともに、本県の教育について、PTA役員の方々、経済界の方々と意見交換を行いました。



保育所・幼稚園若年職員と県教育長との対話



詳しくは、教育政策課のホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310101/>



教育政策課 教育企画担当
TEL：088-821-4731

～男女ともに育児休業等を取得することが当たり前の社会を目指して～

高知県では「共働き・子育て」を推進する宣言を発表し、男性の育児休業取得率を向上させ、家事や育児の時間を増やすことで出生数減少に歯止めを掛け、少子化の流れを逆転させることを目指しています。

高知県教育委員会においても、子どもの生まれたすべての教職員が、育児休業等をしっかり取得し、「男女がともに子育てに参加することが、当たり前」という社会を実現するため、学校現場の理解と協力をお願いしながら次のような取組を進めています。

なお、公立学校における男性の育児休業取得率を 50%（令和 6 年度）とする目標を掲げていますが、令和 5 年度時点で 35%にとどまっており、より一層の取組が必要です。（詳しい内容は、夢のかけ橋（第 95 号）をご覧ください。）

※ 各市町村教育委員会に対しても、県立学校における取組を参考に、男性育休の取得促進に取り組むよう周知しています。

～「育児に関する休暇取得支援プログラム」による取組（県立学校）～

「育児に関する休暇取得支援プログラム」では、管理職員とこれから子育てを迎える教職員が定期的に面談を行うことで、必要な情報を共有し、連携を図りながら、育児期の教職員を支援する体制づくりを進めています。

～ 管理職員 ～

- ・目標設定シートの面談などにより、子どもが生まれる予定の教職員の早期把握
- ・各段階（子どもが生まれる予定の情報を得たときや休暇・休業取得予定の 3～2 か月前など）に応じた面談



- ・育児に関する制度の説明
- ・育児休業等の取得勧奨
- ・バックアップ体制の構築 等

～ 男性教職員の育児休業等の取得促進に向けた知事メッセージの発信（県立学校）～

育児休業等の取得の意義や重要性をより認識してもらい、男性教職員の育児休業等の取得を更に推進するため、新たに子どもが生まれる男性教職員に対し、取組のトップである知事からのメッセージをお渡しすることとしました。



濱田知事

～知事メッセージの内容（一部抜粋）～

お子様が生まれる教職員の皆さん、おめでとうございます。
 子どもの誕生は、ご家族の生活環境が大きく変化する大事な時期です。
 このかけがえのないときに子育てに携わることは、ご家族にとって有意義であることはもとより、貴方にとっても得がたい貴重な経験となり、教育現場でも大いに生かせるものだと思います。
 是非、ご家族と育児への参加について話し合い、また所属の管理職とも相談し、育児休業や休暇を取得していただきますようお願いします。

～ 男性教職員の育児休業体験談の発行 ～

育児休業を取得した男性教職員から、育児休業を取得したきっかけや育児休業中の体験談について原稿を依頼し、記事にまとめています。

昨年度育児休業を取得した男性教職員の体験談も、順次ご紹介していきますので、育児休業の取得を悩んでいる方など、ぜひご覧ください。【男性教職員の育児休業体験談はこちら→】



詳しくは教職員・福利課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/310601/>



教職員・福利課 働き方改革推進担当
 TEL : 088-821-4901

12月26日（木）保幼小の架け橋プログラムシンポジウム開催

本年度で3年目を迎える「架け橋プログラム事業」におけるシンポジウムを昨年度に引き続き、開催いたします。午前中は実践発表、午後は架け橋期のカリキュラムを実践している春野東小学校区の保育所・幼稚園等の先生・小学校の先生とともに、これまでの取組を振り返るトークセッションを行う予定です。

また、文部科学省初等中等教育局視学官 横山 真貴子氏を今年もお迎えして、これからの架け橋プログラムの取組とその方向性についてお話いただきます。小学校の先生方は各校から1名の悉皆研修となっています。ぜひ、複数でご参加いただき、明日への実践に役立てていただきたいと思います。ご参加お待ちしております。

○ 日程・内容

【第1部】

9:30	10:00	10:10	11:15	11:30	12:50
受付	高知県の取組について	《架け橋プログラムの実践発表》 幼児教育施設・小学校・自治体より	文部科学省 講評	昼食 展示パネル モデル地域の実践 (各施設担当が待機)	

【第2部】

13:00	13:20	15:20	15:40	16:20	16:45
開会行事	《トークセッション》 『架け橋期の取組をより充実させていくために（仮）』 ～登壇者～ 実践者：春野東小学校区の保育者と小学校教員等 コーディネーター： 高知学園大学 短期大学 学長 山下 文一 氏 助言者： 大阪総合保育大学 特任教授 神長 美津子 氏	休憩 展示パネル モデル地域の実践 (各施設担当が待機)	《講話》 「架け橋プログラムの取組の重要性と、今後の取組について（仮）」 文部科学省 視学官 横山 真貴子 氏	事務局より	閉会行事

※内容等につきまして、多少の変更があるかもしれません

12月26日（木）

10:00～16:45

高知市文化プラザ
かるぽーと
大ホール

(088-883-5011)

架け橋期とは、義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間をいいます。この時期、保育所・幼稚園等と小学校とで子どもの「学びをつなぐ」教育が展開されることが重要です。



詳しくは 幼保支援課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311601/>



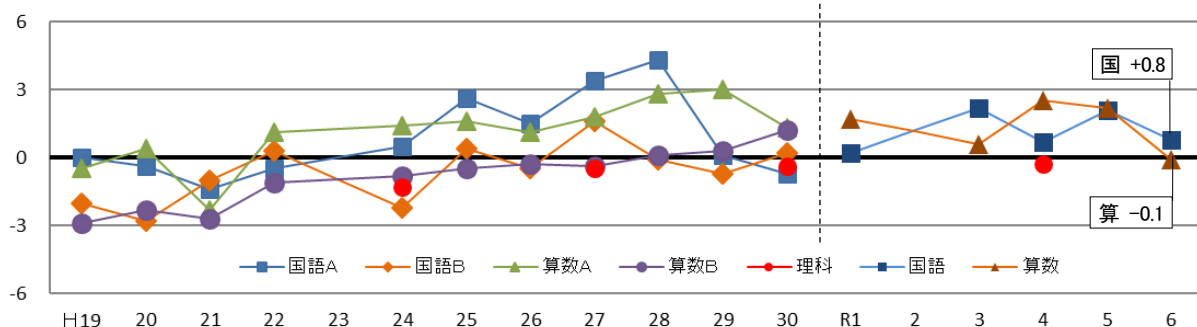
幼保支援課 幼児教育担当
TEL：088-821-4881

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

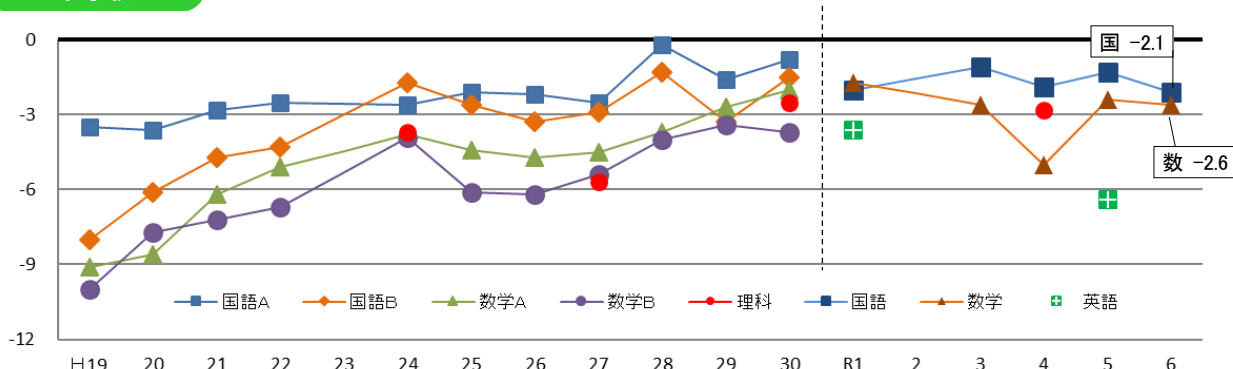
本年4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果が7月29日に公表されました。悉皆調査としては14回目、抽出調査を併せると16回目の調査となります。

● 教科に関する調査の結果（全国平均正答率との差） ●

小学校



中学校



※縦軸は全国の平均正答率との差をポイントで示している。（平成23年度の全国値はない。）

※平成31年度（令和元年度）よりABが統合。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

- ・ 小学校は、全国平均を2ポイント以上上回っていた昨年と比べると、両教科とも下げる結果となりました。特に算数の下げ幅が大きくなっています。
- ・ 中学校は、国語、数学ともに全国平均を下回る結果となりました。両教科とも、昨年より差が大きくなっています。

● 授業改善による成果 ～ 情報同士の関係を分かりやすく整理しながら活用する ～

【例 小学校 国語】

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨
選択	2ー(2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる

< 分析・考察 >

情報の扱い方に関する事項は、令和5年度の小学校国語で課題となっていた。図などを使って情報を整理したり、その関係を捉えたりするよう指導の改善が図られたと考えられる。多様な思考・判断・表現の場面で、情報を整理するための知識及び技能が発揮されるよう、題材や学習過程が工夫されている成果だと考える。

- ・ 小学校国語では、今般の学習指導要領で新設された情報の扱い方に関する事項で、前年の結果と比較して改善した問題がありました。学習指導要領の理解が進んできたことによる成果が表れてきています。



● 学習指導における課題 ～ 知識の意味理解 ～ ●

【例 小学校 算数】

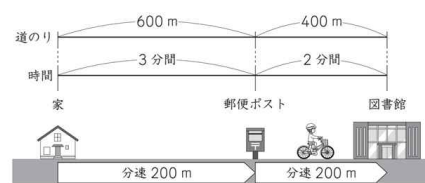
問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨
短答	4 (4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる

< 分析・考察 >

自転車の速さが、家から郵便ポストまで分速 200m、郵便ポストから図書館まで分速 200mであるとき、家から図書館までの速さを分速 400mと解答した児童の割合が 26.9%であった。速さなどの単位量当たりの大きさの意味について理解できていないことがうかがえる。

高知県の正答率 52.4%

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5 分かかりました。



令和4年度

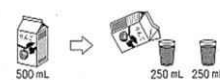
問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨
選択	2 (3)	果汁に含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。	示された場面のよう、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかをみる

< 分析・考察 >

比例の関係を表す言葉と意味を取り違えている。飲み物の量は 1/2 になっても、飲み物に含まれている果汁の割合は変わらないことを十分にイメージできていない児童がいた。

高知県の正答率 23.7%

(3) りんごの果汁が 20% 含まれている飲み物が 500 mL あります。この飲み物を 2 人で等しく分けると、1 人分は 250 mL になります。



250 mL の飲み物に 20% 含まれている果汁の割合について、次のようにまよめます。

250 mL は、500 mL の $\frac{1}{2}$ の量です。

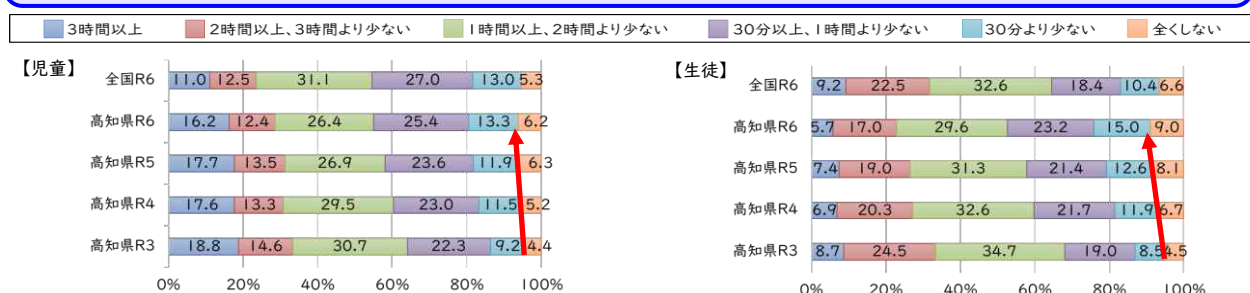
このとき、

- 過去の調査においても、割合の意味理解が十分図られていない状況がありました。
- 児童がなぜそのように判断したのかを説明し合ったり、出した答えが妥当かどうかを、問題場面に戻って条件や経験をもとに検討したりすることを通して、知識の意味理解に至るまで指導することが必要です。

● 学習習慣に関して ●

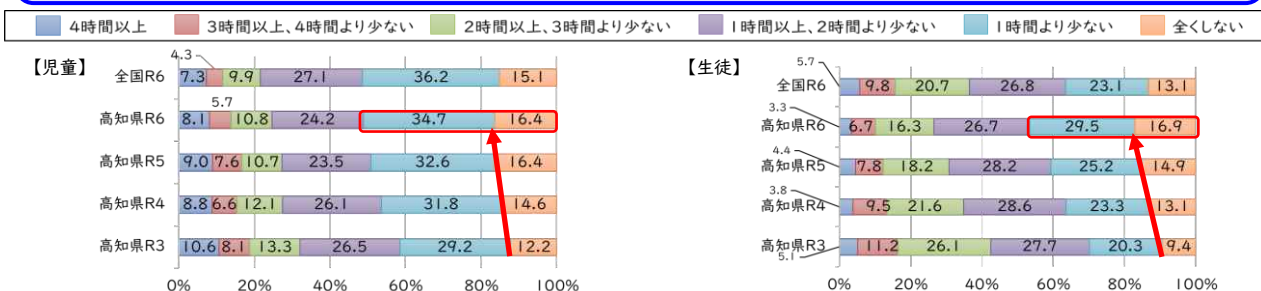
【児童・生徒質問調査 (21)】

学校の授業時間以外に、**普段(月曜日から金曜日)**、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



【児童・生徒質問調査 (22)】

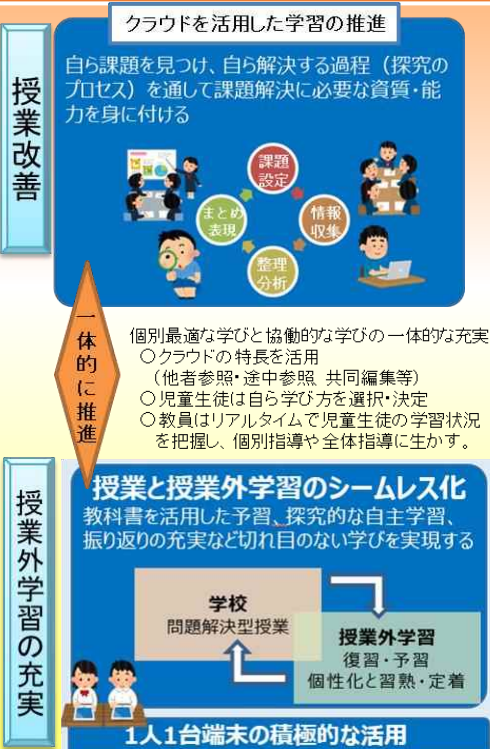
土曜日や日曜日など**学校が休みの日**に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



- ・児童生徒の学習習慣については、平日についても、土曜日や日曜日など学校が休みの日についても同様に、「全くしない」と回答した割合が全国より高く、特に中学校においてはその割合が年々増加しています。
- ・また、児童、生徒ともに、50%近くが「土曜日や日曜日など学校が休みの日の学習時間が1時間より少ない」と回答しており、引き続き課題となっています。

子供を主語に！！自分で学ぶ、共に学び合う

1人1台端末をフル活用して「そろえる」から「伸ばす」学習へ



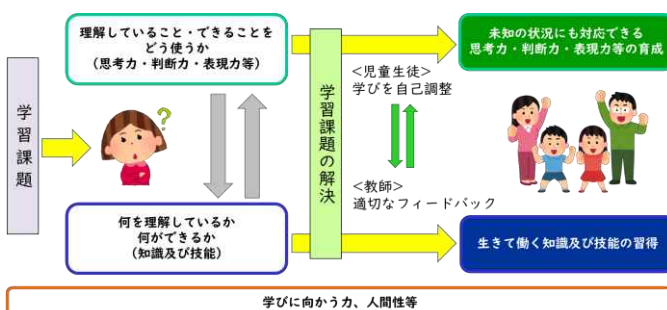
- ・今回の調査結果から、授業改善はもとより、授業外学習についても、その目的や内容が資質・能力の育成につながるものになっているか見直す必要があります。
- ・1人1台端末を、単なる調べ学習やドリル学習、資料共有の道具とするだけでなく、クラウドを活用して、学習者一人一人が自分で学びを進められる授業へと転換することで、授業の学びを学校以外の場所でも継続して行うことが可能になります。
- ・授業外学習を、授業と連動した課題を設定することや、児童生徒が、自身の学習状況に応じて学習計画を立てながら取り組めるようにするなど、家庭で学習した成果が授業の中で実感できるように工夫することで、自ら学び続ける態度を育むことにつながります。
- ・1人1台端末の活用により、授業と授業外学習のシームレス化を図ることが容易にでき、個別最適な学びと協働的な学びを推進することができます。家庭で予習的な学習を行うことで、授業では課題解決に向けた話し合いに重点を置くことができますので、主体的・対話的で深い学びの実現につながるものだと考えています。

教職員の皆様へ

今回の調査問題から、これまで以上に知識の質が問われており、いずれの教科もその点が十分でないことが分かりました。単に個別の知識を獲得するだけでなく、既習の知識と関係付けて構造化したり、知識と経験とを結び付けたりして、子供の中に深い理解を伴った知識として形成されることが必要です。

授業では、学習課題が明確になった後、児童生徒は、これからの学びについて自分で見通しを立て、学び方を選択できる余地が与えられているでしょうか。授業や授業外学習を通して、児童生徒が学びを自己調整する力を育ててください。全てを子供に委ねるのではなく、教師が主導するところと子供に任せるところをきちんと分けることが大切です。その際、必要になるのは教師の適切なフィードバックです。

県教育委員会では、今回の調査結果を踏まえて学力向上の取組をさらに進めていきます。各学校の教職員の皆様には、一層の授業改善や教育活動の充実を図っていただくようお願いします。



詳しくは小中学校課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/>



小中学校課 教育支援第二担当

TEL：088-821-4735

全国高等学校ビブリオバトル 2024 高知県大会 参加者募集！！

「全国高等学校ビブリオバトル 2024 決勝大会」への出場権をかけて、高知県内の高校生を対象にした高知県大会をオーテピア高知図書館で開催します。ビブリオバトルは、お気に入りの本を持ち寄り、その本の魅力を紹介する知的書評合戦です。優勝者は令和7年初頭に開催予定の決勝大会に招待されます。ビブリオバトルに参加することで本への理解が深まり、スピーチ力が磨かれます。読んでみたいと思える本と出会えるかもしれません。

ビブリオバトル高知県大会ルール概要

※詳細は、ウェブ・サイトにて参加要項をご確認ください。

- ① 発表者が読んで面白いと思った本を持って集まる。紹介する本は雑誌・漫画以外。
- ② 順番に一人5分間で本を紹介する。
- ③ それぞれの発表の後、発表者・観戦者全員でその発表に関するディスカッションを2分間行う。
- ④ 全員の発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を発表者・観戦者全員で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。



申込方法

発表者

・メール (teens@library.kochi.jp)

【発表者の申込期間】

令和6年10月5日(土)～11月3日(日)

※定員の16名に達し次第、受付を締め切ります。

観戦者(一般の方もお申込できます)

・メール (teens@library.kochi.jp)

・インターネット(高知県電子申請サービス)

・電話 088-823-4946 (代表番号)

【申込期間】

令和6年10月5日(土)～11月10日(日)

※定員の70名に達し次第、受付を締め切ります。

全国高等学校ビブリオバトル 2024高知県大会

【開催日】 **令和6年11月17日(日)** 13:00～16:30

【場 所】 オーテピア4階 ホール・研修室

【対 象】 発表者……高知県内の高等学校に在籍している者(高知工業
高等専門学校に在籍の者は高校3年次相当まで)

観戦者……どなたでも

【定 員】 発表者……16名

観戦者……70名



昨年度の高知県大会の様子



詳しくはオーテピア高知図書館ウェブ・サイトをご覧ください。

<https://otepia.kochi.jp/library/event.cgi?id=20240720123922au6fyg>



オーテピア高知図書館

TEL : 088-823-4946

みんなでかぶっちょこ～自転車ヘルメット着用に関する取組～

県教育委員会では「自転車ヘルメット着用推進事業」において、県立学校生徒等への自転車ヘルメット購入への助成や着用促進のための様々な取組を実施しております。

今回は高知市内の高等学校では初めて「通学時の自転車ヘルメット着用義務化」とした県立春野高等学校の取組を紹介します。春野高等学校では昨年度、自動車との接触や転倒など約 40 件の自転車事故が発生したことなどを受け、自転車ヘルメットの着用義務化について P T A との協議を開始し、この 9 月から着用義務化としました。

【取組内容】

- ・自転車ヘルメット購入に際し、県補助とは別に P T A から三千円補助
- ・自転車ヘルメット着用啓発講話を実施
- ・高知南警察署「自転車ヘルメット着用推進モデル校」に指定

生徒の命を守るための、この取組が他校の取組にも広がってほしいと思います。



南四国個人タクシー協同組合より寄付



自転車事故で息子さんを亡くした
渡邊さんの「命の授業」



自転車ヘルメット着用推進モデル校指定式



詳しくは 学校安全対策課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/>



学校安全対策課学校安全担当
TEL : 088-821-4533

第9回高知県特別支援学校技能検定

県では、特別支援学校で学ぶ生徒が、職業科等の授業を通して身につけた技能等を、専門的な視点から評価及び認定する、高知県特別支援学校技能検定を実施しています。

高知大会（8月2日）、幡多大会（7月12日）の2会場で【清掃サービス部門】【接客サービス部門】を開催し、各校において【情報部門】の検定も実施しました。

今年度は、県内 12 校の特別支援学校から、165 名（のべ 222 名）の生徒の参加があり 44 名の生徒が 1 級に認定されました。本番では、どの生徒も検定という緊張感の中、それぞれの受検種目に挑み、学校でしっかり学習してきた成果を出し切りました。また、高知大会、幡多大会のそれぞれの会場で、企業の方に向けた見学会を開催し、特別支援学校の生徒が、検定に懸命に取り組んでいる様子を見学していただきました。

9月13日には、高知会館において認定証授与式が行われ、各部門で1級に認定された生徒に、県教育長より認定証が授与されました。



（清掃サービス部門）



（接客サービス部門）



（認定証授与式）



詳しくは、特別支援教育課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311001/>



特別支援教育課
TEL : 088-821-4741

高知県高校生防災サミット 被災地訪問 in 神戸（8月1日～3日）

高知県高校生防災サミットの取組として、隔年で被災地を訪問しています。今年度は、阪神淡路大震災で被災した神戸を訪問しました。参加者は、高知県高校生防災サミットに参加している8校のうち7校からそれぞれ代表1名の生徒が参加し、阪神淡路大震災について学び、兵庫県立舞子高等学校の生徒とお互いの防災活動について交流することで、お互いの学びを深め合うことができました。

今回の被災地訪問に参加した生徒からは「（舞子）高校に環境防災科があるということに驚いた。世界初と聞き、とても興味深かった。」「交流学习を通して、高校生ができることを考える良いきっかけになった。」「将来の夢と防災を結びつけることは自分のためにも周りの人とのためにもなると思うので、しっかり考えて結びつけていこうと思いました。」等、交流や体験等を通して、新しい価値や考えに出会うことができたという感想が寄せられました。3日間を通じて防災リーダーとしての意識の高まりが感じられました。



語り部さんの話を聞く参加者の皆さん（人と未来防災センター）



舞子高校の生徒との交流学习



神戸震災メモリアルパークを散策し、震災の爪痕を見学

令和5・6年度実践校

安芸高校
山田高校
高知農業高校
高知海洋高校

令和6・7年度実践校

室戸高校
高知東工業高校
大方高校
宿毛工業高校

高知県高校生防災サミット 第2回学習会（8月19日）

高知県高校生防災サミットの第2回学習会が8月19日（月）に高知県立塩見記念青少年プラザの多目的室にて行われました。

講師に、さんすい防災研究所 代表 山崎水紀夫氏を迎え、「命をつなぐ避難所運営」と題して、災害時の避難所の実態と運営上の留意点についてお話いただきました。参加した高校生たちは、避難所運営で直面する様々な事態について、スピード感のある判断の重要性などを学びました。

また、午前と午後にわたり「避難所運営ゲーム（HUG）」を体験しました。学校で避難所運営を任されたという設定で、次々とやってくる避難者と課題を、グループで協議しながら頭を悩ませつつも、対応について判断していきました。

続いて、高知県立山田特別支援学校の橋田教諭から、避難所生活で支援が必要な人々に対しての配慮についてご助言をいただきました。その後のグループワークでは、避難所で高校生の立場でもできることなどを話し合いました。「私たち、〇〇できます!」とアピールし、他の人が頼りやすい雰囲気を作るなど、共助の視点をもった意見が多く出されました。この学習会を通して、発災後にどのようなことが必要になってくるのか、各々でイメージする姿が見られました。



講師の山崎氏の話聞く高校生（写真上）避難所運営ゲームについて説明する山崎氏（写真下）



避難所運営ゲームで協議する高校生



引率の先生方も避難所運営ゲームに挑戦しました



橋田教諭からご助言をいただきました



グループワークで話し合ったことを発表しています



詳しくは学校安全対策課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/>



学校安全対策課 学校安全担当
TEL：088-821-4533

「こうち留学」とは

県外の生徒の皆さんに高知県の高等学校に入学していただき、高知県の豊かな自然や食文化、そして地域の人たちと関わりながら高校生活を送るという取組です。地域の活性化にもつながるこの取組を推進するため、令和6年8月4日に大阪市で「こうち留学フェア」を開催しました。

県外募集を行っている学校の説明のほか、県外から高知県の高等学校に入学した生徒の活動紹介や卒業生によるこうち留学の魅力を伝えるセミナーなど、「こうち留学」の魅力を紹介しました。

また、高知県UIターンサポートセンターの「高知でウェルビーイングな暮らし発見フェア」との同時開催により、移住コンシェルジュによる高知県の暮らしや魅力を伝えるセミナーや高校魅力化コーディネーター（県版地域おこし協力隊）の募集に向けたPRなど、移住に関連した情報発信も行いました。

県立高等学校のブースにはのべ30組60名を超える方にお越しいただき、県外の中学生やその保護者の方々に高知県の県立高等学校を知っていただくよい機会になりました。



詳しくは高等学校振興課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/311801/>



高等学校振興課 魅力化推進担当

TEL : 088-821-4542

高知県教育の日「志・とさ学びの日」(11月1日)の推進について

本県では、毎年11月1日を高知県教育の日「志・とさ学びの日」、11月1日から7日までを「とさ学びの週間」と定め、県民の皆さまが教育について知り、考えるきっかけづくりとなる取組を行っています。

市町村教育委員会や各学校等においても、「志・とさ学びの日」に関連した様々な取組を実施していただいているところですが、さらに、この日の趣旨の浸透を図り、教育的な風土づくりにつなげていくため、引き続き下記の取組へのご協力をよろしくお願いします。

(1) 関連行事への位置付け等について

主として11月前後(10月から12月)に開催される行事のうち、趣旨に合致するものを高知県教育の日「志・とさ学びの日」関連行事として位置付け、右記のロゴマークを看板や案内文書等に明示して周知いただくようお願いします。

なお、次年度の行事計画の立案にあたっては、可能な範囲で11月1日から7日(とさ学びの週間)前後、または10月から12月での実施となるよう、ご検討をお願いします。

「とさまなチャンネル」でみんなの学び

を紹介!



(2) 教育関連データの公表について

市町村の広報誌等に、各地域の教育関連のデータ(例:到達度把握調査、生活習慣、体力、読書の状況、子どもの心の状態、学校評価など)を可能な範囲で掲載していただき、住民の皆さまが地域の教育について知り、考える機会を提供していただくようお願いします。



詳しくは教育政策課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310101/>



教育政策課 市町村・学校組織支援担当

TEL : 088-821-4568

中高生等の居場所「Kochi Teens Base」がオープンしました！

この取組は、県教育委員会と高知県立大学が連携・協働し実施するもので、集団で過ごすことや人と関わることに不安があったり、学校へ通いづらいと感じたりしている中学生や高校生、また中学校卒業後の進路が未定な子どもたちなどに、学習支援や交流など、様々な形で社会的自立に向けた成長を支援していくものです。

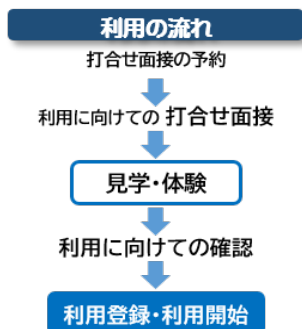
基本的に週1回、金曜日の午後に、高知県立大学の永国寺キャンパス地域連携棟の一室で開催することとしています。安心・安全な居場所となるよう、利用者一人一人のニーズや状況に合わせて、AI学習ドリルの活用やスタッフ等による学習支援、興味関心が広がるような交流や体験活動等を提供していきます。



連携協定締結の様子（8月29日）



部屋の様子



利用の流れについては左図のとおりです。打合せ面接の際に、どのように居場所を活用したいかを伺いし、見学・体験していただき、利用登録を行います。活動中は、心の教育センターのスタッフと、高知県立大学の学生ボランティアが、みなさんと一緒に過ごします。

場所の見学も受け付けていますので、興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひお問い合わせください。また、身近なお子さんで利用してみたら良いかも…という方がいらっしゃいましたら、ご案内いただけますと幸いです。



詳しくは高知県心の教育センターホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311902/>



高知県心の教育センター
 TEL：088-821-9909

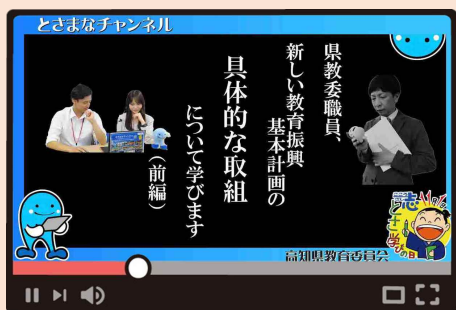


とさまなチャンネルに投稿した動画を紹介します！！

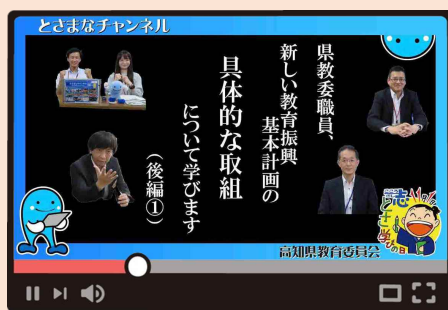
7月末に『【学んでみた】新しい高知県教育振興基本計画の具体的な取組ってなんだろう。』の動画を投稿しました。今年度より実行しています「第3期教育等の振興に関する施策の大綱・第4期高知県教育振興基本計画」（令和6年3月策定）について、県民の皆様にも分かりやすくご紹介するために動画を製作中です。本動画は、高知県教育委員会事務局の職員がドラマ形式で様々な施策・取組をご紹介するシリーズとなっており、後編②以降も随時公開していきます。ぜひご視聴・チャンネル登録をよろしくお願いします。

【学んでみた】新しい高知県教育振興基本計画の具体的な取組ってなんだろう。

[前編]



[後編①]



こちらの二次元コードよりご視聴ください！！

前編



後編①



詳しくはYouTubeチャンネル『とさまなチャンネル』をご覧ください。
<https://www.youtube.com/@user-dx7bm9tn8h>



教育政策課 教育企画担当
 TEL：088-821-4731